

うけつぎたい話

渡ヶ次小学校

六年

平田

姫菜

「おばあはね戦争のとき、こんな所にか
くれていたんだよ。」

おばあちゃんがはじめて話した戦争について
のことでした。おばあちゃんは、この続きを
話しませんでした。

私のおばあちゃんは、沖縄戦がはじま
った
当時、まだ小学生でした。訓練のこと、ガマ
やどうくつのことなど、色々覚えていると思

いますが、話してくれたのは、この一言でし
た。

「戦争のとき、こんな所にかくれていたんだ
よ。」

そう言、て指をさしたテレビには、せまそう
な入り口で穴のような場所がうつ、ていまし
た。その続きを私はその時聞きたいとは思
いませんでした。私はた、た一言で色々な事を
考えることができませんでした。また私のおばあ
ちゃん
の兄は戦争のとき、伊江島で亡な、た

聞きました。そんなっらいことがあ、たにも
かかわらず話してくれたおばあちゃんには感
謝です。私はいれいの日が近づくところの一
を思い出します。

また、六年生になって私は戦争のことかと
ても知りたくなりました。なぜなら、チビチ
リガマヤシムクガマ、恨の碑に行って何があ
ったか教えてもらったり、新聞などで、体験
者のお話を読んで、他にあ、たことを知れた
いと思、たからです。また、体験者といっか

は七な、てしま、うので今、話を聞けた時にき
きたいと思うからです。
は、んを見、て、さわ、て、体験者の話を聞
いて、今だからできることがある。おばあ
ちゃん、おじいちゃん、私が
いて、いとこがいて。友達のおじいちゃん、
おばあちゃん、私が生きていたから、私の友達や
親友がいて幸せだと思、います。生きていたく
ても生きらな、た人のために、私は、一
生けん命生きます。そして戦争のことを次の

世代へ、また次の世代へ、話をうけついでい
きたいです。